

第一回市民セミナー秋山先生原稿

東京大学医科学研究所で基礎医学の研究をされていた江川滉二先生が1999年4月に、世田谷区瀬田に免疫療法を患者さん一般に広く提供するために瀬田クリニックをスタートされました。その後、2002年に2番目のクリニックが新横浜にできた際に江川先生からお声をかけていただいたのが、私と免疫治療のかかわりの始まりです。

私は数多くの患者さんとかかわってきましたが、身近な人にも免疫療法を紹介する場面がありました。

同年代の友人、親友と呼べる3人の男性と私を含め4人が経験した免疫療法です。これからお話する免疫療法は、すべて活性化自己リンパ球療法 $\alpha\beta$ です。4人とも癌になりました。全員、進行癌です。

一人目は上顎洞癌で手術、化学療法をやり末期状態で免疫治療をやり48歳で亡くなりました。

二人目は私で16年前に大腸癌になり東大医科学研究所で手術、化学療法を行い、現在は免疫療法を年4回行っています。

三人目は医大の友人でした。膵臓癌で進行が早かったため手術はできず、化学療法、免疫治療、放射線治療を行いました。57歳で亡くなりました。

四人目は2年前に胃癌で国立がんセンター東病院で手術をし化学療法と免疫治療の併用療法を行いました。再発徴候もなく現在年4回の免疫治療のみ行っています。

私は普段の診療で免疫細胞療法の $\alpha\beta$ は一生続けるという方針で臨んでいます。これからお話することで私の免疫治療の方針を御理解していただけたらと思います。

ここで二人の患者さんについてお話します。

一人目は私の親友の上顎洞癌になった症例です。上顎洞癌の手術は東北大学で、化学療法は彼の住む福島県いわき市の病院で行いました。免疫治療を開始したのはすでに末期状態になってからで、入院中の病院が採血、点滴に協力するということが可能になりました。

癌は脳に転移しており意識はなく、膀胱に尿道カテーテルが入り、仙骨部に床ずれがあり、化学療法後で髪の毛は真っ白でした。それまで夕方熱が続いていましたが、 $\alpha\beta$ の点滴をした日は夜間発熱がなく、濁っていた尿が澄んできて家族も目で見て症状の違いを認識することが出来ました。宅急便では治療が翌日になってしまうので、家族が毎週、朝早く福島から瀬田まで $\alpha\beta$ を受け取りにきて、当日の午後に点滴をしていました。

1クールが終わる頃には床ずれもかさぶたになり改善しました。15回の免疫治療後亡くなりました。化学療法後、白くなっていた髪の毛は一時黒くなっていましたが、亡くなって3日目には真っ白に戻っていました。

髪の毛の件では、私の胃癌の親友は若い頃から髪が真っ白でしたが最近黒々としています。病気前の白髪の免許証を見せ、病気になって免疫治療のおかげで若返ったと話していました。残念ながら、私はまだ黒くなっていませんが。

以上から α β は、感染症、組織の新陳代謝にも効果があるのではないかと思われました。

二人目は乳癌の患者さんで現在 62 歳。15 年前、40 歳代で免疫治療を希望し茨城県常総市の西部病院に来院しました。ここは現在、私が新横浜クリニックと共に免疫治療を実施しているもう一つの病院です。

その 1 年前から乳癌の診断を受けていましたが、本人の希望で手術、化学療法はやりたくないとのことで免疫治療を探しあて来院しました。

化学療法は効かないこともありうるので、やらないという選択肢もありますが、手術をしない場合のリスクについて話をし、とりあえず免疫療法を開始しました。

何回か説得するうちに乳癌の手術を受け入れてくれました。

手術の翌年、左鎖骨の上のリンパ節に転移がありましたが放射線治療で良くなりました。

化学療法はやりませんでした。

手術の 5 年後の PET 検査で胸骨の脇のリンパ節転移があり放射線治療を行いました。

ここまで免疫治療はハッキリとした再発予防にはなりませんでしたが、その後の転移はなく現在は元気に仕事をしています。結局、免疫治療は手術前から今日まで 15 年間継続しています。現在、年 4 回の治療を行っています。

長年にわたって免疫治療をやっているような方は初めは再発予防などで開始しても、治療しているうちに、他の癌にならないようにという予防効果も期待できるかもしれません。

化学療法とはちがい、免疫療法はほとんどの癌に有効と考えられているからです。

病気になった当初、彼女の心配をしてくれた知人、友人の何人もの方が亡くなりました。

15 年前は病気になったということで彼女が不安のトップにいたわけですが、何人もの方々が彼女を追い抜いていったわけです。

彼女とは 40 歳代で乳癌になったおかげで、その後大病を患わず寿命まで生きられたということもあるかなと話すこともあります。

免疫治療は疾患の種類、症状、進行度、患者さんの体力、合併症などにより期待できる効果が違ってくると思います。しかし化学療法ができない、衰弱した患者さんや高齢者でも治療対象になります。何より末期状態でも生活の質 QOL を高める場合が多いのです。

我が家は私と妻の二人が年 4 回の α β を行っています。

妻は 15 年前甲状腺の手術を行なっています。

瀬田クリニックからの給料を瀬田クリニックにお支払いしている状態です。

実際、年に何回やればよいのか判りませんが、私、妻、乳癌の患者さんの 3 人は 15 年間はうまくいっています。

瀬田クリニックで 50 回以上治療している方は 107 名、10 年以上治療している方は 23 名いらっしゃいます。

患者さんには α β はやめないで年に 1、2 回でもよいから続けることを勧めています。

力のある患者さんには適応があれば手術、化学療法、放射線治療をすることを勧めます。それらの治療が選択できない患者さんには最終目的は病気を治す事ですが、その前に病気と共存して生活の質 QOL を高める治療法について相談します。

実際免疫治療をしている患者さんで亡くなる数日前まで普通の生活が出来る方を何例もみてきました。

穏やかな時間をご家族と共有する事、またご自身の落ち着いた時間をしばし取り戻す事は、たとえ残念な結果になっても、この過程はかけがいのないものと信じます。

保険診療では限られた時間に多くの患者さんを診なければならないので医師と患者さんの間は病気の話をするだけで精一杯という対応をしなければなりません。免疫治療は 30 分の時間がありますので、病気だけではなく、患者さんが病気についてどう考えているのか、今までの治療についてどう思っているのか、今後どう生きていきたいのか、またご家族もどう過ごしていきたいのかをゆっくり話すことができます。

それにより、おひとりごとに患者さんが目標をもって治療に望めるような方針をたてられます。これは医療の理想だと思っています。

江川先生には、私が通常の医療では体験できないことを免疫治療に携わることで機会を与えて頂いたことに大変感謝していると申し上げたことがあります。

今後も私はお役に立てる間は免疫治療にたずさわっていきたくと考えています。

江川先生の遺稿となりました 「がん治療 体にやさしい医療への潮流」 をぜひお読みください。

私は免疫治療で受診された患者さんやご家族の方々から大変多くのことを学ばせて頂きました。心より感謝いたしております。

本日は患者さんに感謝の気持ちをお伝えしたい思いと、これまで経験してきたことをお話ししたいという思いで参加させていただきました。

ありがとうございました。

プロフィール

出身 福島県いわき市 1953 年生まれ

福島医科大学卒業後、東京大学医科学研究所外科入局

2002 年新横浜瀬田クリニック開業時から免疫治療に携わる

現在、水曜日は新横浜 火、木曜日は水海道西部病院で免疫診療を行っている